

3月 幾代会観察会実施

日 時 3月14日(日) 天気 晴れ 集合 9時50分 梅の公園

観察ルート 梅の公園→中道梅園→吉川英治記念館→即清時→岩割りの梅→中道梅園→梅の公園
→梅の公園内で昼食→梅の公園周遊→終了(終了3時)

参加者 越前 須崎 宇津木 羽深 中部

コロナの緊急事態宣言下ではありますが、感染対策を施しながら実施した。実施場所はすべて外であり、ソーシャルディスタンスを保ちながら歩き、春先の植物を観察した。昨日の雨から一転さわやかな風が心地よい。今年の開花状況は早く季節をおうように咲く梅が一斉に咲き始めた印象となった。1ヶ月かけてゆっくりと楽しむ梅の花が、忙しく咲き競う。花見の心を失った感情に襲われる。

これは喜ぶべきか。季節を味わう楽しみを失った悲しみというべきか。戸惑いを隠せない。おまけに新たに植えられた梅の木には感慨を寄せることができずに戸惑いながらの観察となった。ここにはあの名だたる品種の梅の木があったなど、なじめない品種が多くある。人の心の生業がなせるわざというべきか記憶の底にあるものが邪魔をする。公園内は梅一色だったところに、様々な理由から、早春に咲く花の種類が増えた。しかも梅の花と同時に咲き競い、いまだ小さい梅は圧倒されている。

観察された梅の公園の植物

ミチタネツケバナ オオイヌノフグリ ホトケノザ 植栽物では ゲンカイツツジ サンシュユ ボケ シデコブシ アセビ カタクリ アズマイチゲ すでに咲き終わったものもあるセツブンソウやフクジュソウなどは葉が茂る。昨年植えたマンジュシャゲの葉は元気ない。雨が降らなかったせいだろう。小さな植物も増えつつある。ロウバイもすでに咲き終わっている。

今年度は

1月から始まった新型コロナの騒動はい今も続いている。緊急事態宣言はいつやむともしれない。動物とともに様々なウイルスが動物の体に顕在化させては、蔓延させ、人が対策を講じて終息させる。しかし決してウイルスは消えることはない。新型の手ごわいところは無症状の状態では他の人に乗り移るという。乗り移った方が顕在化させて重症にまでさせてしまう。あるいは死に至らしめる。流行が長引けばウイルス自体が変異し、今度はスピードを増して他人に乗り移る。ひとはこの対応に苦慮している。

以上実施報告 (2021年) 令和3年3月17日

中部喜和